

第1期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果概要



*Toward Global Excellence
in Research and Education*

国立大学法人神戸大学
平成23年5月

はじめに

神戸大学は「真摯・自由・協同」の理念を掲げ、高度に国際性に富む研究教育を実践する総合大学として、さらなる飛躍を目指し、第1期中期目標期間中(平成16～21年度)に学長のリーダーシップの下で策定したミッション・ビジョン・ステートメント「神戸大学の使命」、「神戸大学ビジョン2015」等の実現に向けて、様々な取組を進めました。

「国立大学法人評価委員会」での評価においては、中期目標期間の業務実績の状況は、すべての項目で中期目標の達成状況が「良好」又は「おおむね良好」となりました。

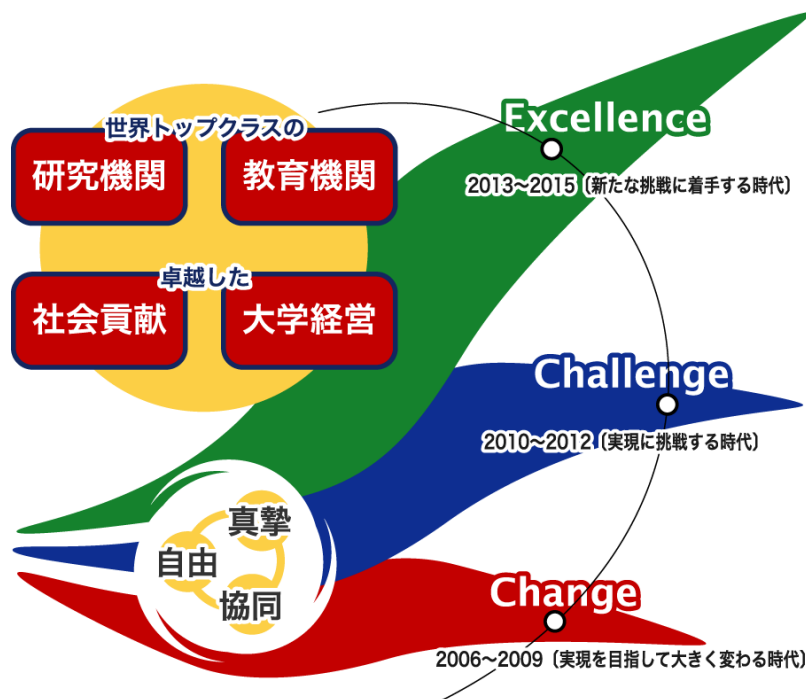
以下に評価結果において、特記された点や注目すべき点を中心にその概要を掲載します。

なお、[青字の記載箇所](http://www.kobe-u.ac.jp/info/evaluation/policy-kokuritu.htm)は、電子版(<http://www.kobe-u.ac.jp/info/evaluation/policy-kokuritu.htm> 掲載)において、評価結果に関連する本学のウェブサイトに関連されていますので、併せてご参照いただきましたら幸いです。

グローバル・エクセレンスの実現に向けて

◆ 学長のリーダーシップの下で策定したミッション・ビジョンステートメントの着実な展開

平成18年度に策定・公表した「[神戸大学ビジョン2015](#)」を実際に展開するための具体的施策として、20の政策と50の実施項目を設定し、各年度の重点的行動計画を策定していることとともに、平成20年度からはビジョン推進経費を創設するなどビジョンの達成に向けた取組を推進していることが、注目される事項として評価されました。



政策実施項目一覧

ミッション	政策		実施項目	
	ID		ID	
世界トップクラスの大学の研究機関	11	コア研究の支援・育成	111	コア研究(第1弾:神戸大学既存学術領域ベース)支援
	12	卓越した研究成果の創出	112	将来のコア研究(第2弾:新たな学術領域ベース)育成
	13	研究活動への精励	121	若手研究者支援
	14	研究環境・支援の拡充	122	研究のPDCAサイクルの実現
	15	卓越した研究者が集う環境の整備	131	教員人事制度の見直し
	21	本学独自の教育プログラムの確立	132	全学委員会の削減・効率化
	22	グローバル人材の育成	141	研究施設・設備の高度化・拡充
	23	高度語学教育の実施	142	(職員による)研究支援業務の拡充(競争型公募研究獲得)
	24	最先端の研究を反映させた教育の実施	143	(職員による)研究支援業務の拡充(研究admin)
	25	高度専門職業人教育の強化	151	若手研究者生活支援の拡充
	26	キャリア教育の拡充	152	外国人研究者支援の拡充
	27	教育環境・支援の拡充	153	女性研究者支援の拡充
	28	ICTへの対応	211	教育のPDCAサイクルの実現、FDの体系的な実施と強化
	29	学生生活の充実	212	単位の実質化
	31	高い評価を得る社会貢献の推進	213	少人数教育・対話型授業の拡充
卓越した大学経営	41	ユニバーシティ・ガバナンスの構築	221	単位認定基準のグローバル化
	42	大胆な経営改革	222	豊かで深いある教養教育の強化
	43	ステークホルダー・エンゲージメントの充実	223	留学(派遣・受け入れ)の拡充
	44	「神戸大学ブランド」の価値向上	231	英語教育の強化
			232	語学教育(英語以外)の強化
			241	研究室機能の充実(コア研究、少人数教育の場として)
			242	図書館機能の高度化
			251	(高度専門職業人教育に係る)教員の充実
			252	(高度専門職業人教育に係る)国内外拠点の拡充
			261	郵局別キャリアパスに合った学生の募集
			262	キャリア教育プログラムの拡充
			263	就職支援プログラムの拡充
			271	(職員による)教育支援業務の拡充
			272	教室・教育設備の拡充
			281	情報教育の強化
			282	e-Learningの拡充
			291	優秀学生・海外派遣学生・留学生への奨学金・支援の拡充
			292	課外活動・ボランティア活動・学外活動の支援
			293	学生生活関連施設の充実
			311	附属学校園の充実
			312	高度先進医療の持続的な推進
			321	新規社会貢献事業の開発
			322	エクステンションセンター立ち上げの検討
			323	保有不動産の活用
			411	経営・執行の在り方の検討
			412	政策方向性の全学的な整合性の確保
			421	職員人事・能力開発制度の見直し
			422	事務業務の改善
			423	経常経費の見直し・削減
			424	自主的な病院経営
			431	使命実現のための基金拡充
			432	卒業生とのリレーションシップの強化
			441	知名度向上のための取り組みの拡充
			442	他の教育機関(特に中等教育機関)との連携の強化
			443	インターナル・ブランディングの強化

◆ 学部における教育改革プログラムを活用した教育レベル向上のための積極的な取組

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択された「PEPコース導入による先進的英語教育改革:総合大学におけるプロフェッショナル・イングリッシュ・プレゼンテーション能力育成プログラムの開発」に基づき、ネイティブスピーカーの外国人講師による授業外での英語プレゼンテーションセミナーを実施したことは、平成19年度からのPEPコースの開講につなげ、多くの学生に英語のプレゼンテーション能力を向上させていることが、優れた点として評価されました。
(参考:[「国際コミュニケーションセンター現代GPプロジェクト第1期生報告会」](#))
また、[特色ある大学教育支援プログラムをはじめとする多くのプログラムが採択](#)され、これらのプログラムを活かした新たな授業科目を積極的に設定し、全学共通教育や各学部・研究科の授業科目として定着させていることが、特色ある取組として評価されました。
(一例:[IPW教育ウィーク2009「現場で学ぶ職種間連携」](#))



集中研修の様子

◆ 大学院における専門性を身に付けた人材、自立的研究者及び国際水準の研究者の養成

各領域において専門性を身に付けた人材、自立的研究者及び国際水準の研究者などを養成するため、多くの部局では、査読付き雑誌への投稿、学会での発表を推奨し、学生一人当たりの論文数も多く、学会において多くの研究が賞を受けていることや、国際協力研究科において国際公務員基礎スキル向上のためのカリキュラムを立ち上げるなどの工夫や国際機関における海外実習への学生の派遣等により、国際的に通用する研究者を養成していることが、注目される点として評価されました。(参考:[国際協力研究科 国際公務員養成プログラム](#))



国際公務員WEEKパンフレット

◆ 世界的な研究レベルにある分野に対する支援

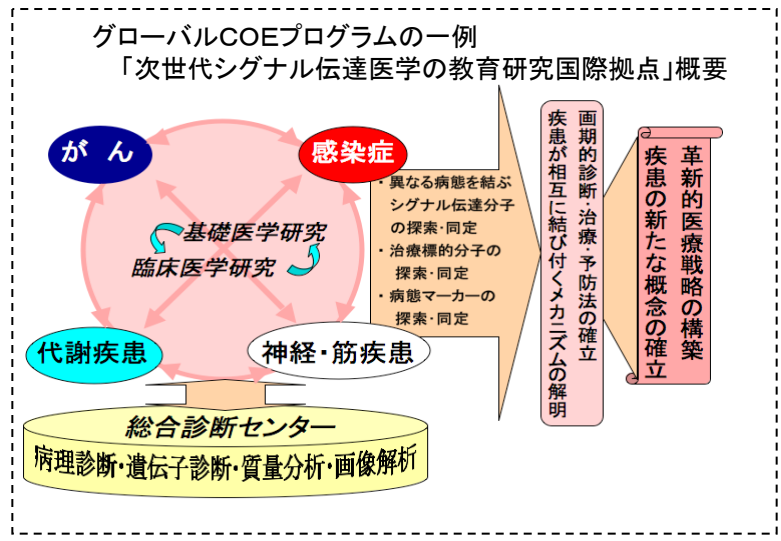


本学は、世界的な研究レベルにあり、優れた研究実績を上げている研究に対し、学長裁量枠定員により教員の配置を行う学内公募型事業「学内発の卓越した研究プロジェクト」を平成18年度から実施して研究支援を行うとともに、21世紀COEプログラムやグローバルCOEプログラムに採択されているプロジェクトに対しても学長裁量枠定員から教員を配置していることが、優れた点として評価されました。

また、「学内発の卓越した研究プロジェクト」による支援がグローバルCOEプログラム3件の採択につながっており、世界的なレベルにある研究の高い水準の維持や、より一層の向上が図られたことが優れた点として評価されました。

研究支援に係る学長裁量枠定員措置人数

年 度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
プロジェクト名等					
学内発の卓越した研究プロジェクト		7	18	13	7
大型研究プロジェクト(科研ほか)	2	4	6	6	7
21世紀COEプログラム	7	7	6		
グローバルCOEプログラム			2	7	7
計	9	18	32	26	21



◆ 研究シーズの積極的な発信等を通じた外部資金の増加

「研究シーズ集」の発行等、全学をあげて産学連携を推進したことが、外部資金及び特許出願数の増加等、高い成果が上がっていることが優れている点として評価されました。

また、中期計画で「外部からの研究資金の獲得額を歳出決算額の15%程度まで増やすように努める。」については、平成21年度において、外部資金比率が17.1%となり数値目標を超える成果を上げたことが優れている点として評価されました。

研究シーズ集

光る変位計

氏名 芥川 真一
所属 工学研究科 市民工学専攻

1. 研究の概要とキーワード
新しい概念「On Site Visualization」、すなわち、身の回りで起きている空間的な変化を検出し、その場所（On Site）光の色にして結果を表示（Visualization）する方法論を研究しています。この研究成果は、地震計測だけでなく、我々の生活に密着するあらゆる構造物（土木構造物、建築構造物、大型機械、運動場の大型道具、急斜面など）に対する平常時の安全監視にも応用可能です。
2. 他の研究との相違点・新機軸点
「光る変位計」に秘められた新しいコンセプトは、自然災害に対する防災から始まり、安全・安心な労働・生活・都市空間を実現するためのあらゆる安全監視に展開が可能です。また、それを実現する過程で、捉えられている情報（構造物の変形状況など）が常に光の色によって情報提示されているようにこれまでになく新しいシステムを構築できたため、幅広いシーンに対応する装置群を構築することで、国内はもとより海外においても適用範囲が大きく広がる可能性があります。
3. 内容
新開発された光る変位計の構造と動作原理について、これまで情報が一般市民に開示されることはほとんどありませんでした。すべては管理責任者と専門家の判断に委ねられていました。しかし、「光る変位計」を使用することで、「究極の24時間体制情報開示空間」の中で生活することになります。この技術は、「先に見守られた新しい生活空間」を得るためのものです。
4. 研究の適用分野
あらゆる構造物（土木構造物、建築構造物、大型機械、運動場の大型道具、急斜面等）

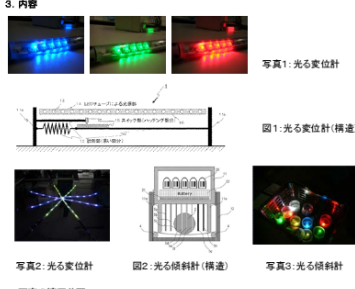


写真1: 光る変位計

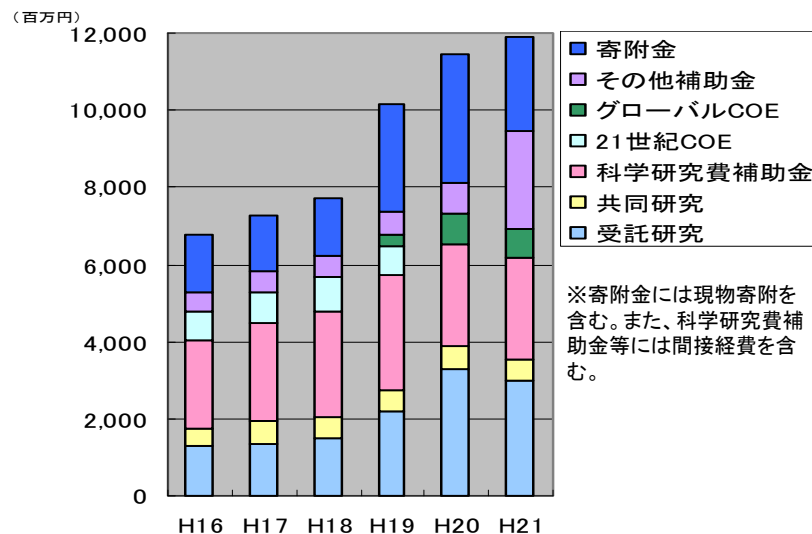
写真2: 光る変位計

写真3: 光る傾斜計

図1: 光る変位計（構造）

図2: 光る傾斜計（構造）

外部資金受入額(H16～21)



◆ 産学官民連携を推進するための体制強化による成果

平成20年度以降、連携創造本部の再編・強化によって、神戸市、兵庫県等地方自治体との連携を促進し、[グローバル産学官連携拠点](#)、科学技術振興機構（JST）地域産学官共同研究拠点整備事業に選ばれ、[兵庫県内の大学との地域連携を推進](#)して成果を上げていることが、優れている点として評価されました。

また、[神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター](#)及び[インキュベーションセンター](#)において、関連分野のベンチャー企業の創出等に努めていることや、[バイオビジネスコンペJAPANで最優秀事業に選出された「熱応答性磁性ナノ粒子の開発とその実用化」](#)の共同研究を行った企業と合同でベンチャーを立ち上げ「[第21回独創性を開く先端技術大賞](#)」で特別賞を受賞したことは、特色ある取組であると評価されました。

神戸大学インキュベーションセンター
神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター



(神戸ポートアイランド地区)

I 教育研究等の質の向上の状況 (Ⅲ)その他の目標①

◆大学が保有する資源の活用を通じた社会への貢献

練習船深江丸を利用して、地震などの災害時に人工透析が必要な患者の海上輸送システムを検証し、このシステムの全国的な普及に努めていることは、特色ある取組であると評価されました。



深江丸



海陸連携支援システム

◆ 地元自治体等との連携を通じた社会連携・地域貢献への取組

神戸市との連携により開設した子育て支援施設「のびやかスペースあーち」では、市民の福祉の向上と発展に貢献するなど優れた成果が得られており、平成21年に神戸市の市民福祉奨励賞を受賞していることが、特色ある取組と評価されました。



「のびやかスペース あーち」内の様子

現代的教育ニーズ取組支援プログラム「震災教育システムの開発と普及」の成果として、神戸市等と共同で制作しました防災教育教材「ビジュアル版幸せ運ぼう」を全国都道府県政令指定都市等に提供し、阪神大震災の経験を踏まえて、地域での防災への取組を支援していること、また、そのことが、災害情報の分野で優れた成果が得られたとし、日本災害情報学会から「2009年度廣井賞(社会的功績分野)」を授与されていることが特色ある取組であると評価されました。



◆ 寄附講座の積極的受入による社会的要請の高い課題解決に向けた取組

神戸市から寄附申込みがあった「内科系講座／小児科学分野／[こども急性疾患学部門](#)」では、小児急性疾患や地域における効果的な小児救急体制の研究などを通じて地域ニーズに対応するなど、社会的に要請の高い課題に関して積極的に寄付講座を受け入れ、件数等が増加していることが、平成16～19年度の評価から顕著な変化が認められる点として評価されました。

寄附講座	平成19年度	平成21年度
受入件数	5件	8件
特命教員数	10名	16名

◆ 教育・研究シーズの還元による国際交流活動への取組

アジア・太平洋地域の国々を対象に、国際協力機構(JICA)と協力して、集団研修コースの研修員の積極的受け入れ、JICAの事業である「[ラオス国国立大学経済経営学部支援プロジェクト](#)」、「[イエメン国タイズ州女子教育向上計画プロジェクト](#)」及び「[ソロモン国マラリア対策強化プロジェクト](#)」の受託を通じて、教員等研修プログラムを充実させていることは、特色ある取組であるとして評価されました。



[ラオス国立大学創立10周年記念式典](#)



[イエメン国タイズ州女子教育向上計画プロジェクトワークショップ](#)



[ソロモン国マラリア対策強化プロジェクト](#)

◆ 大学病院として社会から求められる先端的な医療の開発、地域医療への貢献及び医療人の育成

○「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けるとともに腫瘍内科・腫瘍センターの設置、「[がんプロフェショナル養成プラン](#)」採択による他大学病院との連携強化等、がん医療の推進を図っていることが注目される事項として評価されました。

○ 北米や英語圏からの家庭医の教育に造詣の深い専門医の継続的な招へい等により、全人的医療を行うチーム医療を実現していることが注目される事項として評価されました。



招へいした専門医による指導風景

○「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」事業では「ヘリコバクターピロリ感染による胃癌誘導因子への疫学的解析研究」等を通じて、国際的に活躍できる医療人の育成を行っていることが注目される事項として評価されました。



「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」事業 研究発表風景



「がんプロフェショナル養成プラン」連携機関

○ 兵庫県、兵庫県丹波市と神戸大学との間で基本協定を締結し、医学研究科と協働し、丹波地域の医療水準の向上を図るため地域医療循環型人材育成プログラムを実施していることが注目される事項として評価されました。

◆ 高度かつ社会的要請の強い医療を展開するための病院施設の充実

- 小児医療を強化するために、従来の病棟を「こどもセンター」としてリニューアルし、また、集中治療室(ICU)を増床、脳卒中ケアユニット(SCU)の設置等、重症患者に対する診療体制を強化していることが注目される事項として評価されました。



こどもセンター

- 各診療科に5か国語による診療案内看板を設置し、外国人受入対策を図っていることが注目される事項として評価されました。



5か国語標記されている診療案内看板

◆ 効率的な病院経営を推進するための管理運営機能の充実

- 病院経営企画課を新たに設置し、また、診療科支援チーム、診療情報分析チームの2つの組織横断的な特別チームを設置して経営改善のための企画立案機能の強化を図っていることが注目される事項として評価されました。

◆ 総合大学の強みを活かした初等・中等教育を展開するための附属学校再編

神戸大学の理念である「真摯・自由・協同」の精神に基づき、社会を創造する知性を持ち、国際感覚にあふれた人材の育成をねらいとした教育を行うため、これまでの発達科学部附属学校園(1幼稚園、2小学校、2中学校、1特別支援学校)を新たに、大学附属学校園として、1幼稚園、1小学校、1特別支援学校にするとともに、2中学校を発展的に見直し、中等教育学校として設置することを決定し、平成21年4月から再編を開始しました。また、運営を統括する附属学校部を設置し、大学と附属学校が恒常的に協議を行っていることが、注目される事項として評価されました。



中等教育学校第1回入学式



工学研究科と附属学校との連携授業

◆ 大学と附属学校の連携を強化するための様々な取組

「学部附属交流会議」を開催するとともに、「学部・附属コラボレーション委員」を設定し、科学研究費補助金申請支援、小中合同プロジェクト研究の推進、学部との連携研究、研究報告会の実施に取り組んでいる。各附属学校においては、学部・附属コラボレーション委員と連携し、発達支援カリキュラムや小中一貫英語カリキュラムの開発等に取り組んでいることが注目される事項として評価されました。



附属住吉小・中学校における共同研究



附属明石中学校における
キャリア発達支援カリキュラムの開発

Ⅱ 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

◆ 世界トップレベルの研究及び教育を展開するための運営体制の改善

- 平成18年度に策定・公表した「神戸大学ビジョン2015」を実際に展開するための具体的施策として20の政策と50の実施項目を設定し、各年度の重点的行動計画を策定したこと、また、平成20年度からはビジョン推進経費を創設するなど、ビジョンの達成に向けた取組を推進したことが注目される事項として評価されました。

◆ ダイバーシティ及び構成員のスキルアップに配慮した人事制度の整備

- 学長裁量枠定員を活用し、女性研究者支援を目的とした研究者の公募採用を実施するなど、[女性研究者の採用の促進に向け取り組んだこと](#)や「子育てと研究両立プラン」を整備・活用し、子育てと研究の両立に取り組んだことが注目される事項として評価されました。
- 「[自己啓発職務専念義務の免除制度](#)」を平成20年度から試行的に導入し、平成21年度までに事務職員、医療職員の合計119名に対して職務に関連する能力開発を行ったことが注目される事項として評価されました。



子育て中の研究者支援

◆ 事務等の効率化・合理化に向けた「業務改善プロジェクト」の推進

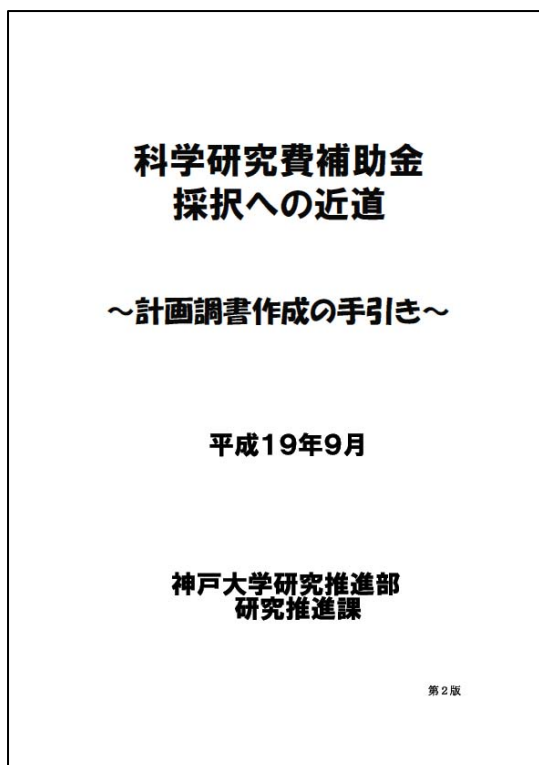
- 事務組織再編・整備及び事務業務改善のため、外部のコンサルティングファームと協同で「業務改善プロジェクト」を設置し、事務機能の現状調査・分析を行って業務改善のための施策案を作成したこと、このうち出張依頼や旅費計算、兼業認定等の事務業務の簡素化、自動発行機による証明書の発行対象拡大、公用車運用業務の廃止等、61件の施策を実現したことが注目される事項として評価されました。

Ⅱ 業務運営・財務内容等の状況

(2) 財務内容の改善に関する目標①

◆ 外部研究資金の獲得への取組

○ 全学的なアドミニ・アドバイザー制度(職員による 外部資金獲得支援制度)の実施、科学研究費補助金「計画調書作成の手引き」の作成等を行い、平成21年度の科学研究費補助金採択件数が716件(対平成15年度比134件増)、採択金額が26億5,824万円(対平成15年度比8億7,910万円増)となったことが注目される事項として評価されました。



科学研究費補助金説明会の様子

Ⅱ 業務運営・財務内容等の状況
(2)財務内容の改善に関する目標②

◆ 財務状況の改善に向けた経費の抑制及び財務情報の分析等に関する取組

- 消費電力抑制のための「[神戸大学電気予報](#)」のウェブサイト掲載、印刷物や定期刊行物電子化による印刷経費削減等の管理的経費節減に向けた取組実施、ゴミの分別廃棄や省エネルギー推進について「[環境管理ガイドブック](#)」を配布するとともに、環境管理センターウェブサイト等で周知徹底に努めたことが注目される事項として評価されました。
- 平成16 年度から平成20 年度の財務状況についてデータの集積と時系列分析を行い、全学に係る分析結果を「[神戸大学の財務状況](#)」及びウェブサイトで公表し、分析資料を学内予算配分の基礎資料として活用するなど経営改善に活用したことが注目される事項として評価されました。

神戸大学電気予報 (2010年8月)

	電気予報	天気予報	最高気温	降水確率
今日 8/25 (水)		晴時々曇	32℃	30%
明日 8/26 (木)		晴時々曇	33℃	20%
明後日 8/27 (金)		晴時々曇	33℃	20%



- 中期計画及び「神戸大学ビジョン2015」で掲げた政策実行と教育研究の質向上及び組織運営改善を図るため、「学内資金の預り・貸付制度」を平成19 年度に導入し、各研究科において計画的に設備更新を行うなど、予算を戦略的に活用したことが注目される事項として評価されました。

◆ 教育研究等の充実に向けた効果的な資産運用

- 証券会社運用担当者研修会への職員派遣等を通じて資金運用に関する専門知識の向上を図るとともに、安全性・透明性を確保しつつ効果的な運用に努めた結果、平成17 年度から平成21 年度までに総額で2億4,217 万円の運用益を得ており、教育研究等の充実に活用したことが注目される事項として評価されました。

Ⅱ 業務運営・財務内容等の状況

(3) 自己点検・評価及び情報提供に関する目標

◆ データベース構築等による自己・点検評価作業の効率化に向けた取組

以下の点が注目される事項として評価されました。

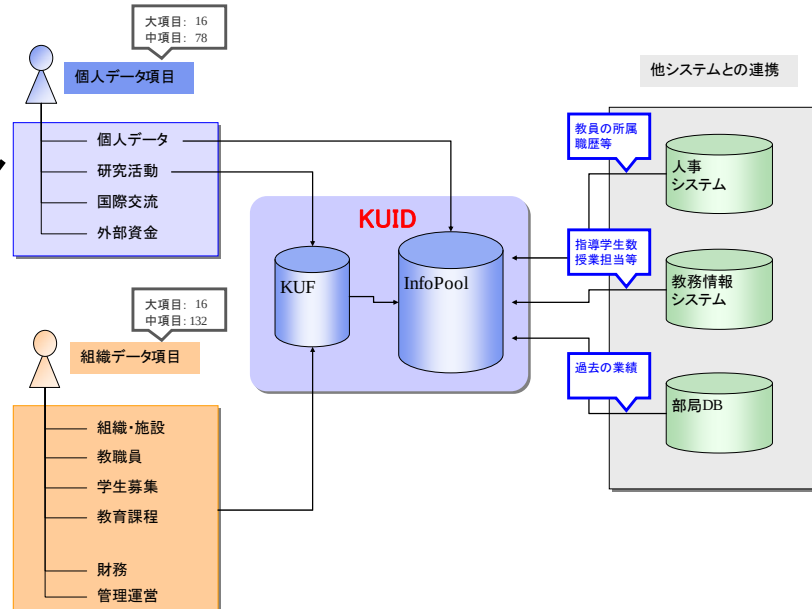
- ・ [神戸大学情報データベース\(KUID\)](#)への継続的な取組により、教員個人データ項目のうち国立大学法人評価に必要なとされる諸項目に関して、入力率100%を達成していることや多くの教員個人等の教育・研究・社会貢献活動に係るデータが集積したこと。
- ・ 表計算ソフトを用いて中期計画、年度計画、部局年次計画の各計画の進捗状況を統一的に管理し、評価作業の効率化に努めたこと。
- ・ 評価データの収集方法や大学独自の「学内共同利用施設等の組織に係る評価」の評価作業マニュアル等により、評価経験がなくても評価作業をイメージできるよう工夫・効率化に取り組んだこと。

KUIDの主な個人データ件数

研究論文	35,389件
著 書	4,809件
研究発表	28,857件
受 賞 歴	521件

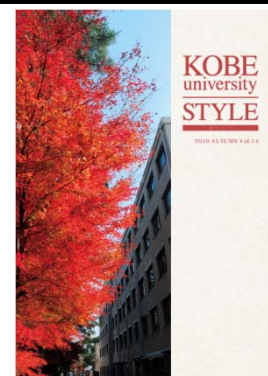
平成22年3月31日現在

KUIDのシステム構成



◆ 教育・研究及び社会活動等の情報を関係者に発信するための取組

広報誌として研究・教育・産学官連携紹介誌「[神戸大学最前線](#)」、受験生・保護者・新生等向けの「[KOBE university STYLE](#)」、「[神戸大学案内](#)」、「[Research Arena \(英文\)](#)」、「[神戸大学の財務状況](#)」を発行し、大学情報の発信に努めたことや、新聞社から講師を招き、広報研修会を実施し、広報活動の在り方に関して意識の向上に取り組んでいることが注目される事項として評価されました。



II 業務運営・財務内容等の状況
(4)その他業務運営に関する重要目標①

◆ 教育及び研究に係る施設・設備を充実させるための施設マネジメントの推進

「神戸大学における施設の有効活用に関する取扱い要項」を策定し、新增設整備に当たっては、面積20%以上の共用スペースを確保しています。また、平成18年度に行ったスペースマネジメントの調査分析結果を基に、各学部・研究科の人材養成と卓越した研究及び若手研究者へのスペースの再配分計画を検討し、各地区の改修工事に反映させています。これらの点が注目される事項として評価されました。



改修後の六甲台講堂



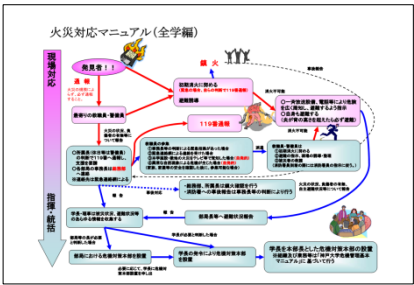
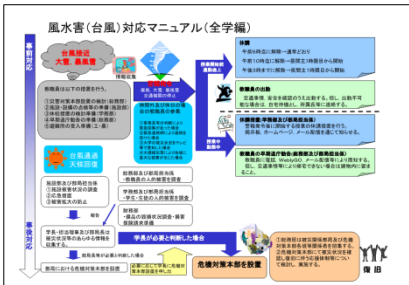
改修後の工学研究科本館

◆ 不測の事態に備えるための危機管理体制等の強化に向けた取組

危機管理体制等の取組として、危機管理基本マニュアル、事象別危機管理マニュアル、学生対応危機管理マニュアル等の各種マニュアルを整備するとともに、緊急時の連絡先、各種規程、マニュアル等を保管した「危機管理ライブラリー」を設置しています。また、平成21年度には地震等の大規模災害時の対応として、災害時を想定した徒歩帰宅訓練、無線機を使用した緊急時連絡訓練等に取り組んでいます。これらの点が注目される事項として評価されました。



神戸大学危機管理基本マニュアル



事象別危機管理マニュアル(全学編)

◆ 学生及び大学構成員の意識啓発等による環境保全への取組

環境意識の高い人材の育成や環境保全に率先して取り組むことを宣言した「[環境憲章](#)」を制定するとともに、「[環境報告書](#)」を作成し、キャンパスごとの温室効果ガス排出量等を公表することで、意識啓発に努めています。また、環境保全対策及び省エネルギー対策の実践として、夏季・冬季の空調機運転等の適正化の徹底、工学研究科本館等の屋上に太陽光パネルの設置、省エネルギー推進計画に基づく定期巡視を行っています。これらの点が注目される事項として評価されました。



環境報告書2009



工学研究科本館屋上に設置した
太陽光パネル



環境シンポジウム
「大学は地球環境問題にどう取り組むべきか」

Ⅱ 業務運営・財務内容等の状況

(4) その他業務運営に関する重要目標③

◆ 首都圏での情報発信及び情報収集等のための東京オフィスの設置

平成17年度から「神戸大学東京オフィス」を設置し、首都圏における同窓会や同窓生との連携を図るとともに、首都圏での情報発信と情報収集、学生の就職活動支援、教育研究活動等支援を実施したことが注目される事項として評価されました。



東京オフィスにおける様々な催しの様子

◆ 国立大学法人評価委員会から指摘のあった事項を改善するための取組

平成16～19年度の評価結果において国立大学法人評価委員会から課題として指摘された、「大腸菌を用いた遺伝子組換え実験が適切な方法で行われていなかったこと」については、これまでに安全委員会による講習会の開催、研究室単位での教育訓練の実施、統括安全管理会議の設置等の安全管理体制の構築・整備を行っており、引き続き、再発防止に向けて取り組んでいます。

なお、複写機の保守等について、一部不適切な処理が行われていたことが課題となっており、再発防止に向けた取組が求められています。



レスポンシブル・ケア月間における講演会の様子



遺伝子組換え実験講習会テキスト



[出光佐三記念六甲台講堂\(玄関\)](#)

***Toward Global Excellence
in Research and Education***